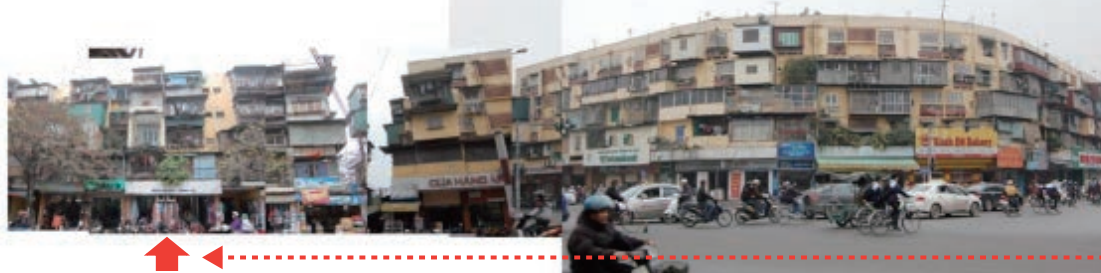


# ハノイの集合住宅のD I Yファサード

文部科学省・私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業  
 『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

MAY 2012  
 VOL.058



Khuong Thuong 団地の連続ファサード。壁面が黄色い集合住宅は旧ソ連の援助によって建設された。広幅員の道路に面した住棟であり、とりわけ交差点部分の円弧を描くファサードは、見られることを意識している。

## ■集合住宅におけるD I Y

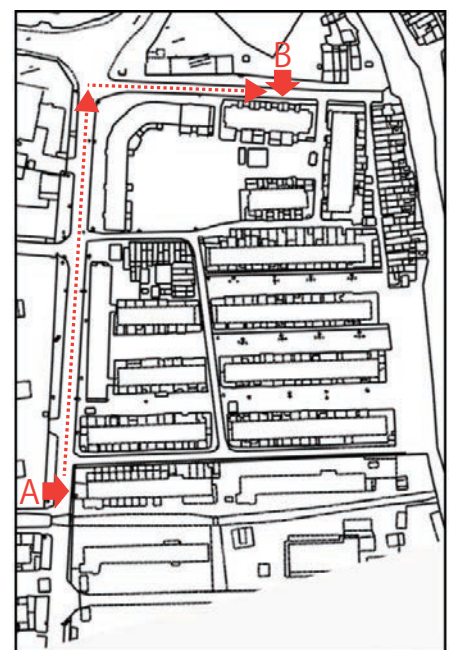
ハノイの集合住宅を巡り歩いて、もっとも目に付くのが、D I Y部分を施していることである。とりわけベランダ部分の張り出しが多い。

D I Yは、サッチャー政権下で行なわれたイギリスの集合住宅においても起きた。自分が占有する領域の差別化がその理由であったといわれるが、問題視する向きもあった。

ハノイの集合住宅もにこの私有化が背景にあると思われる。この団地の道路を挟んで西側の住棟に住む、退職した大学教授に話を聞く機会があった。姪が結婚してハノイに住むようになり、同居することになった。やはり部屋が少ない（2DK）ので、ベランダ部分を張り出す増築をした、とのことである。

老教授が自分でしたのではないようだ。したがって厳密にはD I Yではない。こうした増築をする業者は多く、コンクリートの壁を切ったりする工事を請け負う業者の宣伝貼紙が、そこら中に貼られている。

高質の住宅ではこのような現象はほとんどみられない。やはり、基本的な原因は狭さにあると考えられる。しかし、違った見方もできる。デービッド・ラドリンは、自分の手が加わることによって、住宅に親しみが増す。その親しみがコミュニティへの愛着に貢献する。ハノイのこのような現象にも、そのような効果があるのかもしれない。



Khuong Thuong 団地  
 上記の写真は地点 A から地点 B にかけての連続ファサードを示している。



## ■暮らしが見える改造ベランダ

物置のようなベランダ、飾り窓のベランダ。物語を語るベランダが。ようなベランダ、1室増築したような溢れるばかりのさまざまな生活。

関連リーフレット：004 026 059

### 『ハノイの集合住宅のDIYファサード』

調査：鳴海 邦碩（関西大学 客員教授）  
 レクチャー：鳴海 邦碩（ " " ）  
 執筆：鳴海 邦碩（ " " ）

（調査：2012年2月28日～3月4日）  
 （講演：2012年5月15日）

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成23年度～平成27年度）」によって作成された。

発行：2012年5月

### 関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>